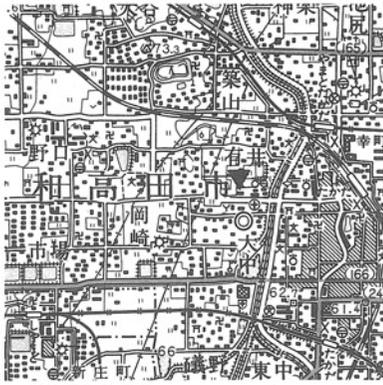


奈良・大中遺跡
おおなか

- 1 所在地 奈良県大和高田市大中
- 2 調査期間 二〇〇六年(平18)十一月～二〇〇七年四月
- 3 発掘機関 大和高田市教育委員会
- 4 調査担当者 濱野俊一
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～飛鳥時代・中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大中遺跡は、弥生時代から中世にかけての複合遺跡である。遺跡は沖積地に立地し、標高は五九m前後を測る。今回の発掘調査はマ



(大阪東南部)

ンション及び個建て住宅建設に伴うものである。検出した主な遺構は、弥生時代後期後半から飛鳥時代では、井戸・土坑・掘立柱建物・溝・柱穴など、中世では一四世紀後半を中心とした環濠・井戸・土坑・柱穴などである。

木簡は、井戸や柱穴などの遺構が集中する居住空間の外側を囲む環濠の機能層から一点出土した。同層からは他に多量の土師皿・瓦器や漆器碗・折敷などの木製品などが出土している。環濠の開削時期は不明だが、一四世紀後半を中心に、一五世紀初頭には埋め戻されている。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「日」日日 日日日 日日日
天 王 也 人 鬼 (符籙) 急々如律令
日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日
」
60.4×50×4.5 051

上端と左右両辺は丁寧削って整形し、下端は尖らせる。表面の中央部、「急々如律令」の直上には、斜行する二本線が交差する記号(剣を表すカ)が記される。左右の「日」はそれぞれ三・四・三のまとまりをもって配置される。そのほかに「急々如律令」の左右にも、「日」らしき墨痕が一部確認できる。

なお、釈読にあたっては、元興寺文化財研究所人文考古学研究室の方々のご教示を得た。

9 関係文献
奈良県立橿原考古学研究所付属博物館「大和を掘る二五 二〇〇六年度 発掘調査速報展」(二〇〇六年)
(濱野俊一)

